

2018年10月5日発行

---

世界情勢ブリーフィング

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

---

■ 安倍総理とトランプ大統領との夕食会（9月23日付外務省）

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/na/na1/us/page4\\_004343.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/na/na1/us/page4_004343.html)

■ 日米首脳会談（9月26日付外務省）

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/na/na1/us/page4\\_004367.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/na/na1/us/page4_004367.html)

■ 日米共同声明（同）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000402972.pdf>

9月に入ると、日米首脳会談が間近に迫ったタイミングで、トランプ大統領は「もし日本との間で合意に達しなければ日本は大変な問題になる（If we don't make a deal with Japan, Japan knows it's a big problem）」と発言。ついにトランプ砲が日本に向けて放たれるか・・・と戦々恐々として迎えた首脳会談。その結果は非常に興味深いものでした。

日本側にとって最も重要な課題は「FTA」交渉の開始と自動車関税の導入を回避することでしたが、これはひとまず申し分ない成果をおさめることができました。

また、7月の米国とEUとの通商協議との連携が強く意識されている点も注目されます。これは以下の記事で述べたトランプの「貿易戦争」の修正に関わる重要なポイントです。

・「米EU首脳会談と『貿易戦争』の修正」（8/1）

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5877>

もともと、「FTA」交渉の回避については、日米両国は「日米物品貿易協定（TAG）」の交渉を開始することで合意したが、安倍首相は「TAG」は「FTA」と異なると述べており、したがってFTA交渉は合意していない・・・という整理をしています。

一方、ライトハイザーUSTR代表は「FTA」締結を目指すと明言しました。交渉は2段階からなり、まず第1段階では早期に合意できるものを扱う・・・としています。

この日米の食い違いが意味するものは何か。それも含め、今回の日米首脳会談の成果と今後の展望について解説します。

\*\*\*\*\*

日米首脳会談と FTA 交渉

\*\*\*\*\*

## ● 「FTA」交渉の回避？

まず TAG ですが・・・正直なところ、これが FTA と何が違うのか、分かりません（笑）。

政府の説明を聞くと、どうやら「物品」貿易に限定されるので、サービス貿易や投資に関する条項を含む「包括的な貿易協定」ではないという趣旨のようです。

しかし、だからといってこれを「FTA」ではない・・・というのは無理があります。

まず文言の問題ですが、WTO（GATT24 条）上は物品のみを自由化する協定も「FTA」としています。

それは WTO の言葉遣いに過ぎず、日本が独自の用語を使っても問題はない・・・といえばそれまでです。しかし、百歩譲って自由化の対象分野を限定すればそれが FTA ではないとしても、日米がある分野の自由化交渉を始めれば、WTO のルールに従う限り、将来的には包括的にならざるを得ないはずで

以下の記事で詳しく述べましたが、WTO は全世界を対象に均等に貿易の自由化を進めることを目指しているので、二国間（複数国間）の貿易協定はあくまでも例外的なアレンジメントです。その例外を許容するためには GATT24 条が定める完全自由化の条件をクリアする必要があります。

・「RCEP 閣僚会合」（7/11）

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5751>

日本が WTO のルールを遵守するというのであれば、日米の貿易協定も当然 WTO のルールに従わなければいけません。共同声明には以下のとおり書かれています。これが包括性に至るプロセスを意識したものであることは明らかです。

「日米両国は、所要の国内調整を経た後に、日米物品貿易協定（TAG）について、また、他の重要な分野（サービスを含む）で早期に結果を生じ得るものについても、交渉を開始

する。」

「日米両国はまた、上記の協定の議論の完了の後に、他の貿易・投資の事項についても交渉を行うこととする。」

冒頭に述べた米側の「2段階」の発言はこの文言に沿ったものとみられます。つまり第1段階はTAG（と他の早期に妥結できる事項）、第2段階はその他の（すべての）分野に対応するということでしょう。

また、テクニカルですが、ライトハイザーは今回の交渉には議会承認が必要なので貿易促進権限（TPA）法に依拠する、とも述べています。これは一部の物品の品目や分野に限定せず、包括的な通商交渉を行うための準備を整えることを意味しています。この点からも米側は「FTA」交渉を念頭に置いていることが見て取れます。

要するに、日本側の説明は「詭弁」と言われても仕方ないものです。なぜこんなことをしたのか。

それは、「FTA」という言葉が「農産品市場の開放」を想起させるので、この言葉が日本のメディアの紙面を飾ることを避けたかったから・・・という一点に尽きるでしょう。

米側も、日本側の事情を分かった上で、それならおたくはそれで説明すればよい、「TAG」と呼びたいならどうぞ・・・我々はそれに異を唱えません（TAGとかいうと説明が面倒だから、我々は普通にFTAと言うけど）・・・ということでしたのでしょう。

以下の記事などで述べたとおり、米国の人々は一般的に通商問題に無関心です。

・「カバノー最高裁判事候補の性的スキャンダルと指名承認の混迷」（10/3）

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=6267>

まして NAFTA や米中ならまだしも、日米となるとほとんどメディアが取り上げることはありません。日米の説明に食い違いがあっても、そんな些末なことを問題視する人など米国にはいません。

そうすると、日本のメディアも、米国内では問題になっていないので、この食い違いを取り立てて大きく報じることはありません。日米の阿吽の呼吸がうまく機能した結果といえます。

では、FTA 交渉を始めることで、実質的な意味で日本が負うリスクは何か・・・つまり貿易協定交渉の実質が次の問題になります。

### ●貿易協定交渉の実質と自動車関税の回避

貿易協定交渉の中身を見ると、少なくとも現時点においては、日本は相当に有利な立場を確保することに成功しています。

共同声明には以下のとおり書かれています。

「日米両国は以下の他方の政府の立場を尊重する。

－日本としては農林水産品について、過去の経済連携協定で約束した市場アクセスの譲許内容が最大限であること。

－米国としては自動車について、市場アクセスの交渉結果が米国の自動車産業の製造及び雇用の増加を目指すものであること。」

まず日本にとっては農産品、米国にとっては自動車が最大関心事項であることを明示しています。その上で、農産品については「過去の経済連携協定」で認めた範囲がマックスと定めています。つまり日本が譲るのは TPP 水準までということです。これなら国内の説得は難しくありません。

さらに自動車については、数値目標など具体的な約束を押し込まれることも懸念されたのですが、それは回避されています。現時点でこの程度の段階であれば年内に具体的な結論に達することはないでしょう。

そして、自動車関税の回避については以下の文言によって担保されています。

「日米両国は上記について信頼関係に基づき議論を行うこととし、その協議が行われている間、本共同声明の精神に反する行動を取らない。」

これは冒頭に述べた米国と EU との通商協定で採択された共同声明と同じ文言です。EU と日本に対して米国が足並みをそろえた対応をとっていることが示されています。

もちろん先に挙げた条項にある「政府の立場を『尊重』する（＝義務ではない）」や「最大限」の意味は解釈の余地があります。また、トランプが合意を意に介さないリスクもゼロではありません。特に中間選挙後にトランプが強硬姿勢を強める可能性は十分にあります。

この点は追って解説します。

しかし、少なくとも現時点において、日本側はほとんど何も失うことなく、むしろ有利な立場を文言に残すことができたことは確かです。ここまでうまくいくとは日本側も思っていなかったのではないかと思います。

では、なぜ米国は強硬な立場をとらなかったのか。

最大の理由は、**USTR** の準備不足でしょう。事務方は中国と **NAFTA** の対応に追われ、とても手が回らなかったと想像されます（関係者からもそう聞いています）。ライトハイザーは **FFR** の日時を直前に一日遅らせましたが、これはよほど切羽詰まっていたことを示すものです。

もう一つは、安倍首相とトランプ大統領の信頼関係です。**FFR** の前に夕食会を先にやったのは大きかったと思います。

何しろトランプは、**USTR** 等の事務方にとってすら行動が読めない人です。**FFR** で話をまとめてもその後の日米首脳会談でひっくり返される恐れは十分にありました。しかし、安倍首相の話には少なくとも耳を傾けてくれるので、まずは安倍首相が話し、不規則な行動を抑え、それを日米両国の関係者が確認できたのは意味があったと考えられます。

なお、以前、安倍首相はトランプから「米国は真珠湾を忘れていない」と言われ、これが信頼関係のなさを示すものだ・・・などと取り上げられたことがありました。これには呆れました。かなり悪質なミスリードだったと思います。

米国人は今でも真珠湾攻撃を取り上げます。12月7日にはテレビで特集番組が流れることもあります。2001年には『パールハーバー』という映画もヒットしました。

今さら真珠湾・・・？と思うかもしれませんが、米国人にとっては、本土が国外から直接に大規模な攻撃を受けた稀有な例で、今なお忘れることができない歴史的イベントなのです（これに並ぶインパクトを与えたのが 9/11 でした）。

そのインパクトが大きいゆえに彼らは日本というと何かとこの話題を出してくるのであって、私の個人的な印象としては、そこに日本に対する悪意を感じることはありません。当時の日本を憎んでいる人はいるでしょうが、少なくとも現代の日本と同一視はしていません。

たとえば『パールハーバー』を見ると戦国武将のような日本軍人が出てきます。真珠湾を扱ったクラシック映画『地上より永遠に』を見ても日本軍の姿はまったく描かれていません。現代の米国人が「真珠湾」を語るとき、おそらく日本の悪質性はそれほど重要ではないのです。

トランプが「真珠湾を忘れていない」というのは、こういった素朴な米国人の心情の現れであって、安倍首相を挑発する意図などなかったことは疑いありません。むしろ「オマエもよくケンカを売ってきたものだ」という軽い冗談のノリでしょう。そんな軽口であれば、私自身、親しい人から散々言われたものです。

## ●日米欧 vs 中国

話が脱線しました。日米首脳会談に戻ると、今回の共同声明にはもう一つ重要なポイントがあります。それは日米欧が共同して中国の不正な貿易慣行に対処する、という決意の表明です。

共同声明には以下の文言があります。

「日米両国は、第三国の非市場志向型の政策や慣行から日米両国の企業と労働者をより良く守るための協力を強化する。したがって我々は、WTO改革、電子商取引の議論を促進するとともに、知的財産の収奪、強制的技術移転、貿易歪曲的な産業補助金、国有企業によって創り出される歪曲化及び過剰生産を含む不正な貿易慣行に対処するため、日米、また日米欧三極の協力を通じて、緊密に作業していく。」

名指しこそしていませんが、これが中国を念頭に置いていることは明らかです。そして、この文言もまた7月の米国とEUとの共同声明とほぼ同じです。二国間の共同声明なので欧州とすり合わせをする必要はないのですが、事務レベルでは十分な調整を行ってきたのでしょう。

二つの共同声明を合わせて読めば、日欧が米国と共同して中国に対抗する構図が鮮明になっています。つまり、日欧は、米国の中国に対する一国主義の圧力を利用しながら、同時に米国を多国間の自由貿易体制につなぎとめようと腐心しており、その努力が米欧と日米の声明という形で実体化した・・・といえます。

以下の記事で、私は「不条理ながらも米国の力づくがまかり通ってしまうのが今の現実な

ので、これをうまく制御しながら、中国が不公正な慣行を抑えるように仕向けるのが日本や欧州にとっては現状において最も現実的で望ましいシナリオ」と述べました。

・「米国の対中関税第3弾」(9/26)

<http://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=6235>

今回の首脳会談では、このシナリオに沿った方向に動いたことが確認できたといえるでしょう。日本、欧州、世界はこれからもトランプの猛威にさらされるでしょうが、そこまで悲観的になる必要もない・・・という展望が見えたといえます。

・・・と書いているうちに、9月30日、米国とカナダが NAFTA 改定について合意に達しました。

この合意に至るプロセスと内容は今後の日米 FTA 交渉にとっても大いに示唆に富みます。来週詳しく解説します。

\*\*\*\*\*

あとがき

\*\*\*\*\*

第4次安倍改造内閣が発足。

「全員野球」内閣・・・これは、英語で説明するとき困るあるあるですね・・・。そもそも野球は全員でやるものと思いますが・・・(苦笑)。

初入閣された方々の中には個人的に親しい方が何人かいます。頑張ってください。

外相は当然ながら河野大臣が留任ですが、外務省といえば・・・

■ 鷹の爪団の 行け！ODA マン (9月21日付外務省)

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/press/event/page22\\_001008.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/press/event/page22_001008.html)

ゴルゴ、ケンコバに続いて、今度は鷹の爪団・・・相変わらず攻めていますね・・・これも河野流でしょうか(笑)。

---

【発行】 The Gucci Post

(Copyright 2018 グッチーポスト株式会社)

【世界情勢ブリーフィング HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/jd/>

【バックナンバー】 <http://guccipost.co.jp/blog/guccipost/?p=395>

【グッチーポスト HP】 <http://guccipost.co.jp/blog/>

【編集部 Facebook】 <https://www.facebook.com/GucciPost/>

【編集部 twitter】 [https://twitter.com/gucci\\_post](https://twitter.com/gucci_post)

【お問い合わせ】 [inquire@guccipost.co.jp](mailto:inquire@guccipost.co.jp)

【内容についての質問・コメント】 [jd.world.briefing@gmail.com](mailto:jd.world.briefing@gmail.com)

※本メルマガの内容は、筆者 JD の個人的な見解であり、グッチーポスト株式会社含めいかなる組織またはグッチー編集長含め他のいかなる個人の見解を代表ないし代理するものではなく、他の個人または組織がその内容に対して責任を負うことはありません。